

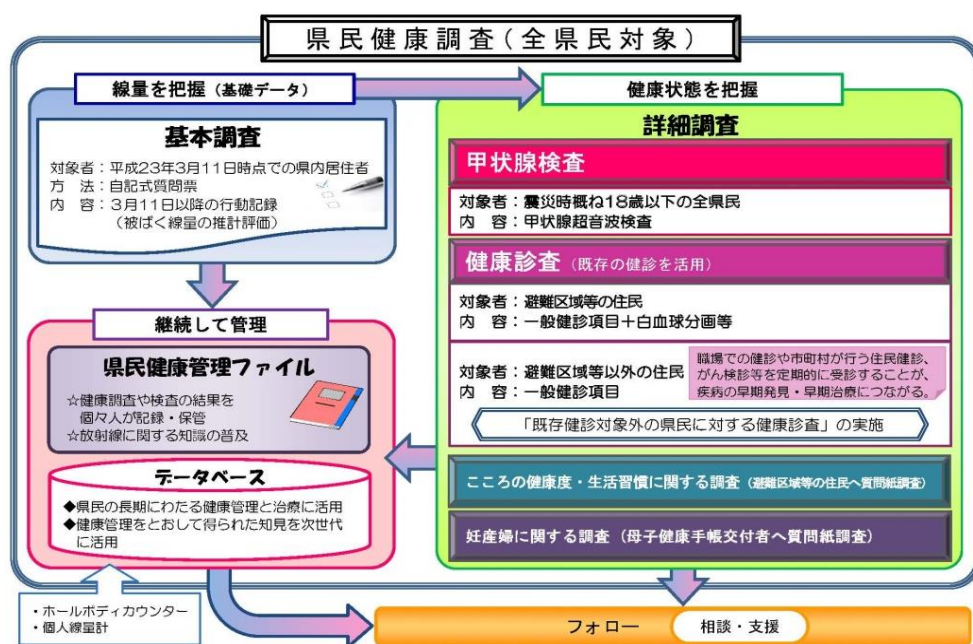
派遣先所属 福島県 県民健康調査課

氏名 柳 拓也 (やなぎ たくや)

派遣期間 平成27年4月1日～平成29年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の県民健康調査課では、「県民健康調査」(下図参照)に関する業務を行っています。これは、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、県民の被ばく線量の評価を行うとともに、県民の健康状態を把握し、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげ、将来にわたる県民の健康の維持、増進を図るための事業です。



県民健康調査のうち、個人線量計の整備や放射線の理解促進のための市町村への補助金(福島県放射線健康対策事業費補助金)、ホールボディカウンター(以下WBC)による内部被ばく検査が私の主な業務です。

福島県放射線健康対策事業では、自身が受けている放射線量を個人線量計で計測することで、自身の健康管理につなげることを目的に、市町村が住民に個人線量計を配布・貸出を行う場合や、放射線による健康影響について理解を促進する事業を実施する場合の費用を補助しています。



WBCによる内部被ばく検査は、人の体内に取り込まれた放射性物質の量を測定し、内部被ばくを評価する検査です。福島県では、8台の車載式WBCを所有し、県内の各市町村で巡回検査を実施しています。県外避難者を対象に県外のWBC保有機関での委託による検査も実施しています。



原発事故から5年経過した現在でも放射線への不安を持つ多くの県民がいます。そのため、個人線量計を用いた個人線量測定やWBC検査を通して、放射線に対する正確な情報提供と正しい知識の普及を図ることにより、放射線への不安を解消・軽減することが重要です。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

2年間の福島県での生活を通して特に強く感じたことがあります。それは、福島県では、建物など大きく目に見える形の復興だけでなく、目に見えない部分の復興が課題となっていることです。震災から5年経った今、福島市では空間線量も当初に比べ低い値を維持し、県内の避難指示区域の一部ではありますが、避難先からの帰還も実現されるようになってきました。一方で、福島県で震災を経験した人々と日常接する中で、“復興から～年”というフレーズをよく耳にします。これは福島の人々にとって、震災が時間軸の基準になっているということを感じ、いかに震災が人々の心にも大きな影響を及ぼしたのかということを感じます。

また、福島県が持っている多くの魅力にも触れることができました。福島では春は花見、夏はまつりに花火、秋は紅葉に芋煮会、冬はスキーと様々な体験ができました。

福島県の復興はまだまだ道半ばではあると感じますが、多くの方に福島の今を知ってもらうことが大事だと思います。

